

事務事業名 認知症地域支援・ケア向上事業

出力日：令和02年03月19日

キーコード：1805

施策：	10	高齢者福祉の充実	財務コード	16030303-02-00
基本事業：	06	介護保険の適切なサービス利用	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	介護保険料収納率 介護サービスに関する満足度（3年に1度） 介護サービスに関する苦情受付件数		担当課	高齢者支援課
			担当係	高齢者福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫医師会及び筑紫管内医療機関に所属する医師			認知症施策の一環として、認知症の早期発見と早期治療で重症化を予防し、住み慣れた地域での在宅期間を延伸するために、筑紫医師会が取り組んでいる「ものわすれ相談事業」に対して、筑紫地区で補助を行う。筑紫医師会では、認知症の診断及び治療を行い、本人及び家族の悩み等にも対応できる「ものわすれ相談医」を育成するための一定の講習を行うとともに、ものわすれ相談医が増えていくよう筑紫管内医療機関に所属する医師に研修受講の働きかけを行う。その他、市民団体と協働して、認知症の人やその家族に対する支援として、学習会や交流会、相談会を実施する。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
認知症の診断や治療が、限られた専門医だけでなく、地域のかかりつけ医でも行えるようになる。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	29年度 実績	30年度 実績	01年度 当初	02年度 要求	03年度 計画	04年度 計画	目標
ものわすれ相談医（新規登録数）		人	2	1	2	2			2
ものわすれ相談数		人	1,636	1,897		2,200			
5. コスト									
事業費		計	千円	60	500	580	687		
		国	千円	23	193	223	264		
		県	千円	12	96	112	132		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	25	211	245	291			
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.15				
正職員人件費		千円	1,599	1,618	1,210				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,659	2,118	1,790	687			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		【状況】ものわすれ相談医の筑紫野市の数は、18名から20名へと微増（1割増）している。 【その他】新規登録者は毎年あがるが、更新のための研修を受講せず失効する医師もいるため、筑紫地区全体としては1名増で、少しずつではあるが、ものわすれ相談医の数は増えていっている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		相談医も受診者数も年々伸びてきているが、ものわすれ相談医の診断や治療、本人及び家族への対応にはばらつきがみられ、平準化の取り組みが必要と感じる。福岡県の認知症医療センターとして指定をうけている牧病院と、地域包括ケア推進会議や委託事業等を通じながら、課題について共有していく。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性が低い	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は小	業務推進課題	なし						
成果向上余地	小さい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
今後増大が見込まれる認知症患者に対する施策の一環として、高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるまちづくりを推進する目的で、認知症の早期受診及び早期治療が可能となるよう、平成23年度より筑紫医師会が行うものわすれ相談事業を補助するため、筑紫地区と筑紫医師会とで協定を締結した。					高齢者が受診しやすいよう専門医だけでなくかかりつけ医で、認知症の診断及び治療ができるものわすれ相談医を増やす。				